掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M193	**言語応用学研究指導Ⅱ**	後金２	２単位
	英文名 Research Guidance in Linguistics Applied Ⅱ	担当教員名 関 茂樹 教授／井狩 幸男 教授／ 山崎 雅人 教授／田中 一彦 教授	

●科目の主題

言語応用学の分野に関する修士論文作成の指導を行う。具体的には、論文の主題の設定の妥当性、議論の組み立て方、参考文献の取り扱い方、資料の収集方法の妥当性、およびその分析の妥当性について指導を行う。

●到達目標

すぐれた修士論文にむけて、分析資料を整理し、論考を完成させる。

●授業内容・授業計画

（関　茂樹教授）主に、語用論の立場から、関連する専攻分野について指導する。専攻研究の中で重要な文献については、議論の構成、展開の仕方、資料の妥当性などについて詳しく検討し、論文作成へと導く。

（井狩幸男教授）神経心理言語学の立場から、母語獲得、第二言語習得、バイリンガリズム、失語症、失読症において観察されるさまざまな言語現象を通して、人間にとって言語とは何かという問題を検討し、同時に、言語への応用を探る。

（山崎雅人教授）言語類型論と認知言語学の視点から諸言語の多様性を貫く原理の分布状況を考察し、様々なデータを一貫した論理に基づいて分析する論考を構築できるように指導する。

（田中一彦教授）伝統的な言語理論を考慮しつつ、現代の代表的な言語理論を考察する。主に、小説・新聞・雑誌などを言語資料として、特定の言語現象を意味論、語用論、さらには談話といった多角的側面から分析できるように指導する。

第１回から第３回　先行研究についての調査と考察
第４回から第７回　具体的な独自の研究成果の発表と考察
第８回から第11回　議論をふまえた独自の研究成果の再考と考察
第12回から第15回　論文の完成にむけての考察と推敲

●評価方法

平常点による。

●受講生へのコメント

論文作成のための資料の妥当性、論述の方法、文章表現について絶えず注意を心がけたい。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M194	**表現文化学研究Ⅰ**	前火４	２単位
	英文名 Higher Studies in Culture and Representation Ⅰ	担当教員名 小田中 章浩 教授	

●科目の主題

フィクションにおける物語の構造

●到達目標

文学や映画、演劇（さらにはマンガやゲーム）のようなフィクションに見られる物語の基本的な構造とは何か。本講は、表現文化学的な研究を行うために必要な、物語論の基礎的な知識を与えることを目的とする。

●授業内容・授業計画

H.Porter Abbott, *The Cambridge Introduction to Narrative*, Second edition,Cambridge University Press, 2008 をテキストとする。教員が予め指定した部分について、受講者にその内容を報告してもらい、次に全員でディスカッションを行って、そこで論じられている問題の理解を図る。

第１回　授業ガイダンス
第２回　テクスト講読とディスカッション (1)
第３回　テクスト講読とディスカッション (2)
第４回　テクスト講読とディスカッション (3)
第５回　テクスト講読とディスカッション (4)
第６回　テクスト講読とディスカッション (5)
第７回　テクスト講読とディスカッション (6)

第 8 回　テクスト講読とディスカッション (7)
第 9 回　テクスト講読とディスカッション (8)
第 10 回　テクスト講読とディスカッション (9)
第 11 回　テクスト講読とディスカッション (10)
第 12 回　テクスト講読とディスカッション (11)
第 13 回　テクスト講読とディスカッション (12)
第 14 回　テクスト講読とディスカッション (13)
第 15 回　授業のまとめ

●評価方法

毎回の講読における受講者の理解度に基づいて評価する。

●受講生へのコメント

無し。

●参考文献・教材

テクスト H.Porter Abbott, *The Cambridge Introduction to Narrative*, Second edition,Cambridge University Press,2008

必要に応じて他の参考文献も紹介する。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M195	**表現文化学研究演習 1**	後水２	２単位
	英文名 Higher Studies and Seminar in Culture and Representation 1	担当教員名 小田中 章浩 教授	

●科目の主題

表現ジャンルとアダプテーションの問題

●到達目標

文学や演劇、映画、あるいはマンガなど、異なる表現ジャンル間におけるアダプテーションの様態とその背後にある理論的な問題について理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

リンダ・ハッチオン『アダプテーションの理論』を出発点として、さまざまな表現ジャンル間でのアダプテーションにどのような問題があるかを整理する。次に受講者の個別の研究分野の中で、アダプテーションの実例とそこに見られる問題について報告してもらい、ディスカッションを行う。

第 1 回　授業ガイダンス
第 2 回　『アダプテーションの理論』の検討
第 3 回　『アダプテーションの理論』の検討
第 4 回　教員によるアダプテーションの事例報告と検討
第 5 回　受講者によるアダプテーションの事例報告と検討 (1)
第 6 回　受講者によるアダプテーションの事例報告と検討 (2)
第 7 回　受講者によるアダプテーションの事例報告と検討 (3)
第 8 回　受講者によるアダプテーションの事例報告と検討 (4)
第 9 回　受講者によるアダプテーションの事例報告と検討 (5)
第 10 回　受講者によるアダプテーションの事例報告と検討 (6)
第 11 回　受講者によるアダプテーションの事例報告と検討 (7)
第 12 回　受講者によるアダプテーションの事例報告と検討 (8)
第 13 回　受講者によるアダプテーションの事例報告と検討 (9)
第 14 回　受講者によるアダプテーションの事例報告と検討 (10)
第 15 回　授業のまとめ

●評価方法

受講生はアダプテーションの問題について各自の専門分野でリサーチを行い、報告することが求められる。
評価は、毎回の授業において与えられた課題を確実に達成したかどうかに基づいて行う。

●受講生へのコメント

無し。

●参考文献・教材

教科書 リンダ・ハッチオン『アダプテーションの理論』晃洋書房、2012 年

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M196	**表現文化学研究Ⅱ**	後水３	２単位
	英文名 Higher Studies in Culture and Representation Ⅱ	担当教員名 野末 紀之 教授	

●科目の主題

19 世紀末から 20 世紀はじめにかけて書かれた男性同性愛をひそかに（または公然と）擁護し主張するイギリスの著作を取上げ、その理論的根拠や発想方法、歴史的文化的意義について考察を加える。

●到達目標

（ホモ）セクシュアリティ言説にかんする著作を精読することで、さまざまな性的表象にまつわる重要な問題群を考察するための視角を獲得する。

●授業内容・授業計画

J. A. シモンズ、H. エリス、クラフト＝エビングなどの著作を読んでゆく。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　テキスト 1　前半
第 3 回　テキスト 1　中盤
第 4 回　テキスト 1　後半
第 5 回　テキスト 2　前半
第 6 回　テキスト 2　中盤
第 7 回　テキスト 2　後半
第 8 回　テキスト 3　前半
第 9 回　テキスト 3　中盤
第 10 回　テキスト 3　後半
第 11 回　テキスト 4　前半
第 12 回　テキスト 4　中盤
第 13 回　テキスト 4　後半
第 14 回　まとめ
第 15 回　レポート作成のために

●評価方法

出席、発表、授業への参加度、レポートを総合的に判断する。

●受講生へのコメント

十分な予習が必要。

●参考文献・教材

プリント配布。参考文献は授業中に指示する。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M197	**表現文化学研究演習 2**	前水３	２単位
	英文名 Higher Studies and Seminar in Culture and Representation 2	担当教員名 野末 紀之 教授	

●科目の主題

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてイギリスで書かれた男性同性愛をひそかに（あるいは公然と）主張したり表現したりする詩文をいくつか取上げ、その表現上の工夫や文化的意義について考察する。

●到達目標

作品の歴史的文化的コンテキストに留意しつつ、テキストを精読することにより、同種のさまざまな作品を分析するさいに有効な視点を身につける。

●授業内容・授業計画

テキストを演習形式で読みすすめる。適宜、サブテキストを使用する。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　テキスト 1　第一回目
第 3 回　テキスト 1　第二回目
第 4 回　テキスト 1　第三回目
第 5 回　テキスト 2　第一回目

第 6 回　テキスト 2　第二回目
第 7 回　テキスト 2　第三回目
第 8 回　テキスト 3　第一回目
第 9 回　テキスト 3　第二回目
第 10 回　テキスト 4
第 11 回　テキスト 5
第 12 回　問題点の整理
第 13 回　論文読解
第 14 回　論文読解（続）、受講生の報告と質疑応答
第 15 回　総括

●評価方法

出席、発表、授業への参加度、試験を総合的に判断する。

●受講生へのコメント

徹底した予習が必要。

●参考文献・教材

プリント配布。参考文献は授業中に指示する。

掲載№	授業科目名	開講期	単位数
M198	**表現文化学研究Ⅲ**	前木 3	2 単位
	英文名 Higher Studies in Culture and Representation Ⅲ	担当教員名 三上 雅子 教授	

●科目の主題

performance という語は現代では、身体による演技・演劇的行為のみならずさまざまな文化現象や日常的行動を評するときに使用される。本授業では、狭義の意味の performance を取り扱うのみならず、こんにち我々をとりまく文化的・社会的現象を performance として捉えその演技性に着目して考察していく。

●到達目標

特定の芸術作品・文化的営為を、社会的・歴史的観点から複合的に分析・研究する方法論の習得を目指す。

●授業内容・授業計画

Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* を参考文献として使用し、その他の performance に関する議論をあわせて紹介していく。さらに受講生各自の研究テーマに関連する諸問題についても講じる。

第 1 回　イントロダクション、アイスブレーキング。
第 2 回　Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* の紹介（1）
第 3 回　Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* の紹介（2）
第 4 回　Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* の紹介（3）
第 5 回　Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* の紹介（4）
第 6 回　Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* の紹介（5）
第 7 回　中間総括（1 回目）
第 8 回　事例研究（1）
第 9 回　事例研究（2）
第 10 回　事例研究（3）
第 11 回　中間総括（2 回目）。
第 12 回　受講生による事例研究（1）
第 13 回　受講生による事例研究（2）
第 14 回　受講生による事例研究（3）
第 15 回　全体総括、レポート作製に関する注意

●評価方法

出席、発表、レポートを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

自己の関心領域との関連で、授業テーマに関する事例を考えてきてほしい。授業中の討論への積極的参加が望まれる。

●参考文献・教材

Richard Schechner: *Performance Studies.An Introduction* を参考文献として使用する。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M199	**表現文化学研究演習 3**	後木３	２単位
	英文名 Higher Studies and Seminar in Culture and Representation 3	担当教員名 三上 雅子 教授	

●科目の主題

本授業では参加者による事例研究に基づいた発表を中心とする。

●到達目標

表現文化学研究に必要な方法論を確認するとともに、学会発表や論文執筆にあたって必要とされるスキルについても、学んでいく。

●授業内容・授業計画

20 世紀の諸芸術ジャンルに関して、受講生に個別発表を行ってもらう。

第 1 回　イントロダクション、アイスブレーキング
第 2 回　受講生各自の発表テーマについて確認、参考文献指示
第 3 回　第 1 回発表ならびに討論
第 4 回　第 2 回発表ならびに討論
第 5 回　第 3 回発表ならびに討論
第 6 回　中間総括（1 回目）
第 7 回　第 4 回発表ならびに討論
第 8 回　第 5 回発表ならびに討論
第 9 回　第 6 回発表ならびに討論
第 10 回　小レポート提出にあたっての注意、討論
第 11 回　中間総括（2 回目）
第 12 回　小レポートに関して総括
第 13 回　最終発表（1）
第 14 回　最終発表（1）
第 15 回　総合総括

●評価方法

出席、発表、レポートを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

討論における積極的参加が望まれる。

●参考文献・教材

授業中に適宜指示する。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M200	**表現文化学研究Ⅳ**	前月４	２単位
	英文名 Higher Studies in Culture and Representation Ⅳ	担当教員名 海老根 剛 准教授	

●科目の主題

今年度は、一年間を通してナラトロジー（物語分析）の基本文献の講読を行う。物語は小説のような文学作品だけでなく、マンガ、ゲーム、映画、テレビドラマなどの視覚的表現においても重要な役割を果たしている。また、物語は人間がみずからの世界経験を理解する基本的方法のひとつであるが、近年のテクノロジーの発展は新しい物語手法の探究を刺激している。この授業では、ナラトロジー研究の第一人者であるとともに、近年は研究対象を文学作品から映像作品まで拡張している Mieke Bal による入門書 Narratology. Introduction to the Theory of Narrative を講読する。物語の分析に関心を持つ他専修の院生の受講を歓迎する。

●到達目標

ナラトロジーの基礎概念と方法論を学び、各自の研究に活かしていく。

●授業内容・授業計画

テキストの講読を行う。適宜、具体的な作品を参照することもある。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　Introduction
第 3 回　Text: Words and Other Signs (1)

第 4 回　Text: Words and Other Signs (2)
第 5 回　Text: Words and Other Signs (3)
第 6 回　Text: Words and Other Signs (4)
第 7 回　Text: Words and Other Signs (5)
第 8 回　Text: Words and Other Signs (6)
第 9 回　Text: Words and Other Signs (7)
第 10 回　Story: Aspects (1)
第 11 回　Story: Aspects (2)
第 12 回　Story: Aspects (3)
第 13 回　Story: Aspects (4)
第 14 回　Story: Aspects (5)
第 15 回　まとめ

●評価方法

発表とレポートによって評価する。

●受講生へのコメント

専修、専門分野を問わず、物語の分析に関心を持つ院生の受講を歓迎する。

●参考文献・教材

Mieke Bal: Narratology. Introduction to the Theory of Narrative. Thirrd Edition. University of Troronto Press, 2009. 授業ではプリントを使用。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M201	**表現文化学研究演習 4**	後木 4	2 単位
	英文名 Higher Studies and Seminar in Culture and Representation 4	担当教員名 海老根 剛 准教授	

●科目の主題

前期に続き、ナラトロジー（物語分析）の基本文献の講読を行う。物語は小説のような文学作品だけでなく、マンガ、ゲーム、映画、テレビドラマなどの視覚的表現においても重要な役割を果たしている。また、物語は人間がみずからの世界経験を理解する基本的方法のひとつであるが、近年のテクノロジーの発展は新しい物語手法の探究を刺激している。この授業では、ナラトロジー研究の第一人者であるとともに、近年はその対象を文学作品から映像作品まで拡張している Mieke Bal による入門書 Narratology. Introduction to the Theory of Narrative を講読する。物語の分析に関心を持つ他専修の院生の受講を歓迎する。

●到達目標

ナラトロジーの基礎概念と方法論を学び、各自の研究に活かしていく。

●授業内容・授業計画

テキストの講読を行う。適宜、具体的な作品を参照することもある。

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　Story: Aspects (6)
第 3 回　Story: Aspects (7)
第 4 回　Story: Aspects (8)
第 5 回　Story: Aspects (9)
第 6 回　Story: Aspects (10)
第 7 回　Fabula: Elements (1)
第 8 回　Fabula: Elements (2)
第 9 回　Fabula: Elements (3)
第 10 回　Fabula: Elements (4)
第 11 回　Fabula: Elements (5)
第 12 回　Fabula: Elements (6)
第 13 回　Fabula: Elements (7)
第 14 回　Fabula: Elements (8)
第 15 回　まとめ

●評価方法

発表とレポートによる。

●受講生へのコメント

専修、専門分野を問わず、物語の分析に関心を持つ院生の受講を歓迎する。前期開講の「表現文化学研究 4」

の履修を受講の条件とはしないが、講読は前期の授業の続きとなるので、前期開講科目の受講が望ましい。必要であれば前期分のコピーも配布する。

●参考文献・教材

Mieke Bal: Narratology. Introduction to the Theory of Narrative. Thirrd Edition. University of Troronto Press, 2009. 授業ではプリントを使用。。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M202	**表現文化学研究Ⅴ**	後水４	２単位
	英文名 Higher Studies in Culture and Representation Ⅴ	担当教員名 高島 葉子 准教授	

●科目の主題

北西ヨーロッパの妖精伝承。

●到達目標

ブリテン諸島、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）、北欧における妖精伝承に関する文献を講読し、ヨーロッパの民間信仰をにおける世界観を学ぶ。日本の民間信仰との比較も随時行う。

●授業内容・授業計画

英語文献と日本語文献をとりまぜて読んで行く予定。適宜、写真などの視覚資料も参照する。

第１回　ガイダンス
第２回　文献講読
第３回　文献講読
第４回　文献講読
第５回　ディスカッション
第６回　文献講読
第７回　文献講読
第８回　文献講読
第９回　文献講読
第10回　ディスカッション
第11回　文献講読
第12回　文献講読
第13回　文献講読
第14回　ディスカッション
第15回　まとめ

●評価方法

平常点 50%、レポート 50%で評価する。

●受講生へのコメント

キリスト教文化圏としてのヨーロッパとは異なった異教的ヨーロッパの世界観を学ぶことを通して、視野を広げる機会としてほしい。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M203	**表現文化学研究演習５**	前水２	２単位
	英文名 Higher Studies and Seminar in Culture and Representation 5	担当教員名 中川 眞 教授	

●科目の主題

アーツマネージメントの実践研究。

●到達目標

アジア諸国の実情に即したアジア型アーツマネジメント理論を学習する。その実践的理解のために、日本（奈良県吉野郡）においてフィールドワークを行い、一定の成果を出すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

基本的にはフィールドにおける集中的な演習となる。初めに理論的展望も含めたオリエンテーションを行ったのち、フィールドでは過疎地における文化資源の有効活用による地域振興の方法や効果について、実践的な理解を深め

る。成果をフォーラム等によって公表する。域学連携授業である。

第 1 回　オリエンテーション（1）
第 2 回　オリエンテーション（2）
第 3 回　フィールドワーク（1）
第 4 回　フィールドワーク（2）
第 5 回　フィールドワーク（3）
第 6 回　フィールドワーク（4）
第 7 回　フィールドワーク（5）
第 8 回　フィールドワーク（6）
第 9 回　フィールドワーク（7）
第 10 回　フィールドワーク（8）
第 11 回　フィールドワーク（9）
第 12 回　フィールドワーク（10）
第 13 回　フィールドワーク（11）
第 14 回　フォーラム準備
第 15 回　フォーラムにて口頭発表

●評価方法

評価はフィールドワークとフォーラム発表の成果に基づいて行う。

●受講生へのコメント

この授業はアーツマネージメントの実践であり、通常の授業時間の枠組み（特定の曜日・時限）の外で行われる。受講者はそれを念頭において受講すること。

●参考文献・教材

中川眞（編著）『これからのアートマネジメント』フィルムアート社、東京、2011
中川眞『アートの力』和泉書房、大阪、2013

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M204	**表現文化学特殊研究**	前集中	2 単位
	英文名 Higher Studies in Selected Topics in Culture and Representation	担当教員名 橋本 一径 非常勤講師	

●科目の主題

痕跡論――イメージ、歴史、記憶、身体

●到達目標

ディディ＝ユベルマンの「痕跡」概念を理解し、イメージをめぐる現代の諸現象に対し、自分なりの解釈を与えられるようになる。

●授業内容・授業計画

デジタル写真が全盛となった現代においては、たとえば報道写真の修正が発覚してスキャンダルになるなど、イメージへの信頼は揺らぎつつあるようにも見える。その一方で誰もが携帯で写真や動画を手軽に撮影し、あらゆる場所に監視カメラが張り巡らされた現代は、かつてないほどイメージが氾濫する時代でもある。本講義は、イメージをめぐって混迷の度合いを深める現代を理解するための、歴史的・思想的な視座を得る試みである。フランスの美術史家・哲学者であるジョルジュ・ディディ＝ユベルマンの提唱する「痕跡」の概念を、さしあたりの手がかりとしつつ、イメージと歴史や記憶、身体の関係を問い直しながら、人類にとってのイメージの意味を問いなおすことを目指す。

第 1 回　ディディ＝ユベルマンと「痕跡」のイメージ（1）
第 2 回　ディディ＝ユベルマンと「痕跡」のイメージ（2）
第 3 回　ディディ＝ユベルマンと「痕跡」のイメージ（3）
第 4 回　写真論の展開――「インデックス」を越えて（1）
第 5 回　写真論の展開――「インデックス」を越えて（2）
第 6 回　写真の歴史（1）――写真と様々な「顔」
第 7 回　写真の歴史（2）――写真と科学
第 8 回　写真の歴史（3）――心霊写真はなぜ怖いのか？
第 9 回　デジタル時代の写真論（1）――写真と集成
第 10 回　デジタル時代の写真論（2）――報道と写真
第 11 回　デジタル時代の写真論（3）――写真と定点観測
第 12 回　デジタル時代の写真論（4）――イメージの権利

第 13 回　イメージの人類学――写真信仰からの脱却を目指して
第 14 回　モンタージュの思想――アーカイヴからアトラスへ
第 15 回　まとめ

●評価方法

レポートと平常点による。

●受講生へのコメント

本講義は集中講義の形式で行われます。上に記した各回の授業内容は、全体の流れの見取り図のようなものだとお考えください。

●参考文献・教材

ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン『イメージ、それでもなお』、橋本一径訳、平凡社、2006 年
橋本一径『指紋論』、青土社、2010 年
その他は授業中に指示する。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M205	**表現文化学総合研究 I**	前金２	２単位
	英文名 Comprehensive Studies in Culture and Representation I	担当教員名 三上 雅子 教授／小田中 章浩 教授／野末 紀之 教授	

●科目の主題

表現文化学という新しい領域横断的な学問の成立の過程と、研究の前提となる知識（文化理論等）について総合的な知識を習得させる。また研究にあたって必要とされる方法論についても確認・習熟させる。受講生に研究発表を行わせ、それに基づき討議をすることによって、プレゼンテーション技術をも学習させる。

●到達目標

表現文化学研究にあたって必要とさせる知見・学問的方法論を習得させる。

●授業内容・授業計画

表現文化学を研究するにあたって必要とされる文献を扱い、研究の前提となる文化理論等に関する知識を習得させる。受講生は得た知見に基づいて、研究対象・研究方法等について、討論・報告する。

●評価方法

授業中の発表等によって評価する。

●受講生へのコメント

授業参加に際しては、自己の研究領域のみではなく、表現文化学研究全般における基本的概念等についても習得・確認することを常に意識すること。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M206	**表現文化学総合研究 II**	後金２	２単位
	英文名 Comprehensive Studies in Culture and Representation II	担当教員名 三上 雅子 教授／小田中 章浩 教授／野末 紀之 教授	

●科目の主題

表現文化学という新しい領域横断的な学問の成立の過程と、研究の前提となる知識（文化理論等）について総合的な知識を習得させる。また研究にあたって必要とされる方法論についても確認・習熟させる。受講生に研究発表を行わせ、それに基づき討議をすることによって、プレゼンテーション技術をも学習させる。

●到達目標

総合研究 I で習得した知見・スキルの基礎の上に立って、さらに修士論文執筆に向けて総合的知見を獲得させる。

●授業内容・授業計画

受講生の研究分野にかかわる具体的なテーマを取り上げて講じる。受講生は、修士論文で取り組むテーマを絞り込み、研究の方向について報告する。

●評価方法

授業中の発表等によって評価する。

●受講生へのコメント

修士論文のテーマについて、教員と相談しつつ準備を重ね、授業での発表にのぞむこと。

●参考文献・教材
授業中に指示する。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M207	**表現文化学研究指導Ⅰ**	前金３	２単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Culture and Representation Ⅰ	担当教員名 三上 雅子 教授／小田中 章浩 教授／野末 紀之 教授	

●科目の主題
表現文化学の修士論文作成の指導を行う。
●到達目標
修士論文作成に必要な知見・方法論等に習熟させる。
●授業内容・授業計画
研究テーマの選択ならびに論文執筆に関して必要な先行研究・関連文献の指示等を行い、さらに論文の構成や論旨の展開についても具体的に助言・指導を行う。
（三上雅子教授） 現代演劇ならびに映画等を対象とし、そこに現れた様々な問題を種々の文化理論・芸術理論に立脚して研究することを指導する。
（小田中章浩教授） フランス演劇あるいは西洋演劇史に関する研究等を対象とし、論文作成、学会発表に必要な指導を行う。
（野末紀之教授） 19 世紀以後のイギリスを中心とする言語表現および身体表象、身体を重要な契機とする現代日本の言語文化を対象とし、それらにかんする論文作成、発表、研究について指導を行なう。
●評価方法
授業での発表等で評価。
●受講生へのコメント
修士論文作成にあたっては、指導教員と相談しつつ綿密な計画を立ててのぞむこと。
●参考文献・教材
授業中に指示する。

掲載No.	授業科目名	開講期	単位数
M208	**表現文化学研究指導Ⅱ**	後金３	２単位
	英文名 Supervision of Master's Thesis in Culture and Representation Ⅱ	担当教員名 三上 雅子 教授／小田中 章浩 教授／野末 紀之 教授	

●科目の主題
表現文化学の修士論文作成の指導を行う。
●到達目標
研究指導Ⅰで習得した知見・方法論の基礎の上に立って、修士論文を完成させる。
●授業内容・授業計画
研究テーマの選択ならびに論文執筆に関して必要な先行研究・関連文献の指示等を行い、さらに論文の構成や論旨の展開についても具体的に助言・指導を行う。
（三上雅子教授） 現代演劇ならびに映画等の非言語的テクストを対象とし、そこに現れた様々な問題を種々の文化理論・芸術理論に立脚して研究することを指導する。
（小田中章浩教授） フランス演劇あるいは西洋演劇史に関する研究を対象とし、論文作成、学会発表に必要な指導を行う。
（野末紀之教授） 19 世紀以後のイギリスを中心とする言語表現および身体表象、身体を重要な契機とする現代日本の言語文化を対象とし、それらにかんする論文作成、発表、研究について指導を行なう。
●評価方法
授業中の発表に基づいて評価する。
●受講生へのコメント
修士論文作成にあたっては、指導教員と相談のうえ綿密な計画をたててのぞむこと。
●参考文献・教材
授業中に指示。